

## 「メクネス」柔道出張指導報告

拝啓、時下益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。

さて、この度私の所属するモロッコ王国柔道連盟よりメクネスと言うカサブランカより車で約3時間位かかる町での柔道指導依頼があり、初めての出張でもあり、また、色々な事がありましたのでご報告方々お便り致します。

当初、メクネスへの柔道出張指導を4月1日（木曜日）から4月4日（日曜日）まで私が所属しているモロッコ王国柔道連盟から依頼されていたのですが、4月1日に私をメクネスまで連れて行ってくれる予定の私の直属の上司ジャマルさんが急遽都合が悪くなったとの由。ジャマルさんが拙宅に迎えに来られなくなった4月1日当日、今後の相談をしに柔道連盟会長のベンバッドさんの所に行ったところ、3日（土曜日）の午後の5時に別の師範が私を迎えに来ることになりました。

その後、「投の形」・「護身術」の演武・解説をする講師が私しかいなかったからか、さらに予定変更となり翌朝（4月2日金曜日）7時に別の柔道連盟の指導員が私を迎えに来ることになりました。

当日の朝の6時50分に私のマンションの玄関前に行き、迎えを待っていましたが、インシャ・アッラーのこの国の常で8時30分頃になって漸く迎えの車が到着しました。そして高速道路に入りましたが、数多くの人達が走っている車の前後を横断している風景は全然変わっておらず、また相変わらず途中の車道を馬車がのんびりと走っている風景にも出会ったりもしました。

モロッコ王国柔道連盟のドライバーは高速道路でも車間距離を守るといった感覚はまるで無く、前の車がブレーキ、私の乗った車も急ブレーキを掛けましたが、ガツンと言う音と共に追突事故となりました。幸いにバンパーが少々凹んだ程度で、双方の運転手が下車、揉めるのかなと見ていましたが、両者大らかに「さようなら」。

まあ、殆どの車の何処かに疵のあるこの国の車のこと、こんなことは日常茶飯事の事でしょうか。

メクネスに行く途中の眺めは夏の北海道を旅した時のバスツアーを思い出させ、北海道の大地を髣髴とさせる広大な草原を左右に見つつ車は走って行きます。草原の中には数多くの羊や牛の群れが草を食べています。また、レンガを積んで屋根の上に石を載せた、こんな家もあるのかと思う住居も散見しました。

さて、メクネスに到着、昼食前私をメクネスに連れて来てくれたモロッコ王国柔道連盟より私をメクネスに連れて来るために派遣されたドライバー且つ柔道指導員、ムスリムは私を喫茶店に残し、自分は近くのモスク（イスラム寺院）へ出向きアッラーに奉げる本日第3回目のお祈り。

その後、私は道場で「投の形」の演武をこの指導員とともに行い、また「投の形」の指導や立ち技での体捌きからの攻防・受身の指導を行いました。道場で立膝をしている受講者には立膝を道場内でやってはいけない、安座か正座するよう厳しく指導し、また、履物を乱雑に脱ぎっぱなしにして道場に入ってくるのをキチンと道場の外側に揃えて脱ぐ様にも指導、柔道着の着方・礼法等も併せて指導しました。その夜は、フェズと言う夜景の美しい町まで車で出向きました。

約一時間の行程です。シンデレラを乗せるような馬車を車道で見かけ（おそらく観光用なのでしょう）、また、遊園地にあるタイヤで走る外見が小型の列車のような乗り物も走っていました。大きな交差点の真ん中の丸くなっている広場の中にある美しい噴水も数箇所見る事が出来、フェズを訪れている観光客が盛んにシャッターを切っていました。

柔道連盟の皆で、その夜はモロッコ定番料理のクスクス等を食べてのパーティとなりました。

翌日の4月3日は、午前中は立ち技・寝技の解説をフランス人の講師と一緒にやり、午後は柔道の七つある形の一つである「護身術」の演武と講習を私が担当しました。講習が終わると終了証を講習会受講者に配布します。それに講師の私の名前を入れてくれと、かなりの受講者からせがまれサインを入れました。まあ偶に来る日本人柔道講師が珍しいのかも知れません。せがまれる内が花なのでしょう。

関 雅夫さん（平成 22 年 12 月）

その後車で皆と晩飯を仕入れに繰り出しましたが、私を乗せて運転していた車のドライバーが、勘違いをしたのでしょうか、鍵を車の中に入れてままドアをロックして車の外に出てしまいました。ドアをキチンと閉めてなかったいい加減さが幸いして、ロックされているドアの僅かな隙間から私が路上にあった紐を拾って作った輪にロックを引っ掛けて引き上げ、何とかドアを開ける事ができました。

モロッコ人に多く見られるいい加減さがここでは効を奏した訳です。いい加減なのが一概に悪いとは言えないとこの時しみじみ思いました。車の中ではコーランがなかなか美しい調べを伴って音楽的に流れています。一日5回のお祈り運動とラマダン月のダイエット、細かい事には拘泥せず、皆で仲良く「アッラー」にモスク(イスラム寺院)でお祈りを奉げて、貧しき人には喜捨、「ショ克蘭・ショ克蘭」働けない人でも何とか生きて行けます。

柔道の寝技で抑えられたら、さっさと諦めて無駄な抵抗なんぞ一切しないで、即「参った」をして(勿論本人はもう駄目だと思うのですが)ラグビー試合の終了の時に吹き鳴らされるノーサイドの笛と同じく「ノーサイド」(敵・味方無くなる事)握手して、時には頬の右・左と接吻して試合終了。そしてお悩みの方には美しい調べのコーランで精神の安定を図る等となかなか良く出来た社会システムです。流石にイスラム教の預言者ムハンマドは現地に適応した社会システムを考えたものだと改めて思いました。

さて、翌日4月4日は昇段試合、大体同じ位の体重の人達とのリーグ戦で、昇段する為には100ポイント必要だとのことです。一本勝ちが10ポイント、優勢勝ちが技ありや有効等で、ここでもポイント差があるとのことです。引き分けはポイントにならないとメクネスに住んでいる柔道式段のJOCV(青年海外協力隊)隊員より聞きました。講道館の初段コースでは規定の出席日数以上出席して「投の形」の試験が通れば昇段させていると聞き及んでおり、また、私の所属している柔道会でも初段の受験者は試合形式の乱取りと「投の形」・礼法・受身等々で推薦して貰った受験者は大体受かっていますが、これに比べればなかなか厳しい感じです。

全体的に見た感じで言えることは、自然体の体捌きの柔道は殆ど見られず、体を前屈させた姿勢からの強引な柔道で、無理な体勢から技を施すため、怪我も散見されます。

偶々私が持って行った爪切りを貸して剥がした爪を切っていた試合者もいました。私がカサブランカに赴任して来たよりも一年前にメクネスに赴任して趣味として柔道をやっているJOCV隊員も来て一緒に当日の柔道試合を観戦しました。偶々、当日に試合会場にいた我々日本人が珍しいのか、あるいは一応柔道の本家と言うこともあるのか、我々二人と一緒に写真を撮ってくれとせがまれることも数多く、二人で快く応じていた次第です。これも国際親善の一環かと思い、金も掛からず、時間と顔を貸しているだけですから、お安い御用です。

このメクネスに住んでいるJOCV隊員と柔道試合会場前で別、一路懐かしのカサブランカへモロッコ王国柔道連盟の同僚師範の車で、当日の柔道試合の美しき女性審判員とともに送ってもらいました。カサブランカに着くとモロッコ王国の旗が数多く立ち並んでおり、何か特別な事でもあるのかと柔道連盟師範に尋ねたところ、モロッコ国王モハメッド6世がカサブランカに来ているので道路脇を国旗で埋めているとの回答でした、その数多くの旗の波を横目に見つつ、途中カサブランカの町でその女性審判員とはお別れし、私のマンションまで送ってもらい、今回の柔道出張指導は幕を閉じました。色々な事があってなかなか面白い旅でした。

やはり、この国に生きていくからには高速道路での追突事故でのモロッコ人同士の事故対応等に見られるように、また、インシャ・アッラーの世界でもあることから、かなり大らかな精神状態でないと生きていけないようです。私の師匠、柔道十段、大澤慶巳先生も精神の大らかさについて同じようなことを言っておられましたので、人間の心のあり方はモロッコも日本も同じなのでしょう。

それでは人生大らかに・明るく・楽しく・健康で・元気に過ごしましょう。またお便り致します。敬具

関 雅夫さん（平成 22 年 12 月）

## モロッコ王国アガディール世界ジュニア柔道選手権大会

拝啓、時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

JICA21-2次隊の柔道SV(シニア海外ボランティア)の関 雅夫です。

2010年10月21日(木曜日)～10月24日(日曜日)迄の4日間モロッコ王国アガディールにおいて世界ジュニア柔道選手権大会が開催されました。世界中の新聞記者やカメラマン等が集まった大きなイベントでしたので、海外市民レポーターを委嘱されている私は、今回行われたこの世界ジュニア柔道選手権大会にスポットを当ててレポートを致します。

レポートの前に、少々お時間を頂きまして一世紀以上前に行われた日露戦争終結後の東郷平八郎聯合艦隊司令長官の艦隊解散の辞の最後の部分を紹介致します。曰く、「神明は唯平素の鍛錬に力め。戦わずして既に勝てる者に勝利の栄冠を授けると同時に一勝に満足して太平に安んずる者より直ちにこれを奪う。古人曰く勝手兜の緒を締めよと。」とあります。即ち、如何に平素の鍛錬が大切か、平素の鍛錬が出来ていなければ戦場では戦えないということです。試合等に限らず、平素の訓練・鍛錬をやっていないと急に試合等で使える物ではない、と改めて思った大会でもありました。ついては、この金言を皆様の心に留め置いた上で、私のレポートを読んで頂ければと思います。

1974年より開始されたこの世界ジュニア柔道選手権大会は、今回で16回目を迎えました。2008年、タイのバンコックで行われて以降、2009年フランスのパリ、2010年モロッコ王国のアガディールと毎年大会が開催されるようになりましたが、それ以前は隔年で開催されていました。途中の中断があったりもしましたが、本年は北大西洋とアトラス山脈に挟まれた人口約70万人弱の美しい町並みの観光都市アガディールでの開催となりました。



私はモロッコ王国柔道連盟の顧問と言うことで、講道館館長九段上村春樹先生御一行様の真後ろの席に座らせて頂き、元モロッコ王国担当柔道SV(シニア海外ボランティア)で私の前任者の国学院大学柔道部OBの七段堀 甲子男先生と一緒に観戦させて頂いたり、また、モロッコ王国応援団の中に混ざったり、はたまた日本選手を応援している中に入ったりしながら観戦しておりました。

参加国は85ヶ国余りに上り、試合会場の外に参加各国の旗が翻っている様はまさに壮観、日の丸も勇ましく風に靡いていました。私は同じ柔道連盟の友人の車で現在住んでいるカサブランカ(スペイン語で語で白い家の意)から、同じく白い家並みが目立つ美しい観光都市、アガディールに連れて来てもらいました。

アガディールに着き、先ず試合場を見て驚いたことは、試合開始の青と白の開始線が貼っていませんでした(主審の右側が青・左側が白となり畳二枚の間合いで規定の大きさ・長さの開始線を設置する決まりになっています)。モロッコ王国の柔道試合場で私が見た範囲でも、試合開始線が貼ってあったためしが無いので、こんなこともあろうかと一時帰国の際に私が持参した規定の大きさの青と白のガムテープをモロッコ王国柔道連盟に申告して貼り付けました(モロッコ王国の柔道試合場には、この開始線が貼って無いため、私が出席する柔道の大会はいつも協力者を頼んで一緒に貼っています。武道で大切な間合いの概念が、ここモロッコ王国柔道連盟にはあまりないようです)。

実際、私が遠路遥々用意した日本のガムテープはとても優秀でした。試合の途中で剥がれたりするのではないかとの杞憂をよそに、終日ドタンバタンやる試合場内において多少柔道マットの境目で切れたりしたものの、しっかりと貼り付けておりました。翌日には新しい青または白のテープにそれぞれ私が取替えました。モロッコのテープは薄くて直ぐ剥がれてしまいます。後から国際柔道連盟の役員の方よりこの日本の優秀な青と白のガムテープを試合場内に入ってくる選手の入り

関 雅夫さん（平成 22 年 12 月）

口の場所にも貼るように依頼されました。そこ貼ってあったテープは薄っぺらでチャチなものであったので、日本の優秀なガムテープを貼ってくれと依頼された理由が解りました。

さて、試合場の高い天井を見上げると、屋根があるのどこからともなく入り込んだものなのか、鳩がパタパタと飛び交っています。鳩が落としたとも思われる鳩の糞（鳩爆弾）が試合場内に散見されたため、私がティッシュペーパーで「爆弾処理」をしておりましたところ、これを見ていた役員の方が掃除担当者に指示をして綺麗にしてくれました。また、試合場周辺にゴミが散らかっており、これらも協力者に依頼して綺麗にしてもらいました。

モロッコ人の殆どがムスリム（イスラム教徒）で一日五回もアッラーにお祈りをする敬虔な姿を知っている私にとって、路上にごみをポイ捨てる彼らの姿はどうも一致しません。ごみのポイ捨てという、モロッコ人が普段何気なくやっていることが試合会場でも見られたのは残念なことでした。

また、畳の上に土足で上がって来たりする関係者も散見され、その都度、「ここは神聖な道場だ、靴を履いたまま上がっては駄目だ」と注意しました。

私が巡回している道場でこのような不躰な輩を見つけた場合は日本語で「馬鹿者、ここは道場だ、靴を脱げ」と注意していますが、これで結構通じるから不思議です。鳩爆弾や試合場に数多くいるハエなど障害もありましたが、世界中の新聞記者やカメラマン等の方々も数多く来ているアガディールの世界ジュニア柔道選手権試合会場がいざ開催されました。

試合が始まると太鼓や他の金属楽器・口笛等々や応援の声、旗振り、15,000人前後が入って行く日本武道館での全日本選手権大会等の十倍以上はあろうかと思われる程の物凄い盛り上がり方です。世界ジュニア柔道選手権大会に始めて参加した私は物凄い迫力を感じました。

しかし、柔道の試合内容を見ているうちに、私を指導して下さった柔道十段小谷澄之先生（故人）の、「柔道は自然体で遣らなければならない。自然体から正しい作り（相手を崩すこと。）と正しい掛け（自分の技を相手に掛けること。）が出来る。自然体で遣らない柔道は相手に対してご無礼だ」というお言葉を思い出しました。残念なことに、試合者の姿勢を見ますに、ここでは自然体とは裏腹に多くが前屈した無理な体勢で相手を十分に崩さずに技を掛けており、掛け逃げの反則を取られたり自滅したりしていました。



日本選手の中にもこの様な前屈した体勢から技を掛けていたり、また前屈した体勢で且つ脇が甘いため、そこを相手に付け込まれて背負い投げで投げられたり、巻き込まれてしまったりして消えて行く選手も散見されました。

やはり勝ち続けるためには、全日本選手権大会を9連覇し、ロスアンゼルスオリンピック大会の金メダリストでもある山下泰裕選手のような正しい姿勢

からの、正しい作りと掛けが必要だと思います。邪剣は一時的には勝ち進むことが出来てもやがて敗れ去るとの剣豪宮本武蔵の言葉通りだと思います。

宮本武蔵はまた、「世々の道に背かざること」とも言っています。いくら剣の達人でも気が狂って自分の妻を殺してしまった剣豪の話聞いたことがあります。世々の道に背かず勝ち続けて行く正当性を持った戦い方、自然体の柔道こそが正当なる柔道だと私も信じています。

自然体で脇を閉め、体捌きで相手を崩す。今回の世界ジュニア柔道選手権大会でも自然体からの正しい作りと掛けから施す、眼の覚めるような綺麗な一本勝ちはそう多くはありませんでした。それから日本選手にも、また、外国人選手にも言えることですが、寝技の対応、亀と言って亀のようにうつ伏せで固まって防御している相手に対する対応の拙さも目立ち、もっともっと作家井上靖の著書「北の海」に書かれている高専柔道の様な寝技習得の必要性を感じました。

審判員についても世紀の大誤審と言われたシドニーオリンピックでの篠原選手とフランスのドゥイエ選手の試合で、主審が篠原選手の内股透かし、綺麗な一本を一本と取らずに逆に相手のポイ

関 雅夫さん（平成 22 年 12 月）

ントにしてしまったことがありますが、そこまでいかないまでも場内でやっているのに「待て」をかけてしまったり（何回も何で途中で「待て」をかけるのか？と疑問に思いました）、拳句の果てには審判規定にも無いのに、「待て」を取り消して一本と言ってみたり、日本チーム専属のドクターがいるのに外人のドクターが出て来たり、斉藤仁団長も怒っていました。

あの程度の審判だったら私でも出来ると思ったりもしました。他方、女性の審判員は、男性審判員に比較して数名と遥かに少ないですが堂々と審判をしておりました。

人生の戦いの中で生きて行く柔道家にとって、柔道は自分ひとりの孤独な戦いであると同時に、同じ世界の様々な柔道家・柔道人との連帯でもあります。自分との孤独の戦いであると同時に、相手がいないでは勝負・試合・乱取り等が出来ないので、お互いに相手を尊重するために、礼をキチンとするのは自明の理です。

今回開催された世界ジュニア柔道選手権大会の試合で、試合場に入る前に軽く礼をし、お互いの礼をして、左足・右足と出て主審の「始め」の発生で試合を開始し、主審の「それまで」の合図で試合終了後、主審の勝敗の宣告後に右足・左足と下がって一礼をし、試合場を出る時に軽く一礼する動作がキチンと出来ていた試合は数少なく、武道としての柔道の衰退を危惧しました。負けて試合場に座り込んでしまったり、大の字みたいになってみたり、頭を抱えて蹲ってしまったり...

そういえば、何かの歌の文句にもありました。「勝った、負けたと騒ぐじゃないぜ、後の態度が大大事だぜ」。このようにまだまだ審判員・選手・試合場の設置・その他諸々の問題と反省すべき点が数多く見られた大会ではありましたが、個人的には講道館館長九段上村春樹先生と私の前任者である、七段堀 甲子男先生と私の三人で記念写真を撮影したり、アテネオリンピック金メダリストで今年3月に今回の日本ジュニア選手チームの園田隆二副団長とご結婚され、阿武教子さんより園田教子さんへと苗字が替わった日本チーム女子ジュニアコーチや同じく世界の女子柔道の檜舞台活躍された薪谷翠コーチと記念撮影をしたりで、私にとっては一生の思い出に残る大会となりました。



この世界ジュニア柔道選手権大会は男女とも八階級あり、日本選手は各階級それぞれ二名ずつエントリーして、出場選手合計男女16名ずつ合計32名、メダル獲得は男子金メダル4個・銀メダル2個・銅メダル3個、男子メダル獲得数合計9個、女子は金メダル5個・銀メダル2個・銅メダル4個の合計11個で、男女合計金メダル9個・銀メダル4個・銅メダル7個の合計20個に及びました。出場選手の約2/3がメダルを手にする結果となりました。

今回も男子選手に比較して女子選手の方がメダル獲得が多く伝統的に世界ジュニア柔道選手権大会では女子選手の活躍が光っています。ただシニアになってからも勝ち続けていく選手が少なく、やはり勝ち続けていくためには邪剣に頼らない柔道、正しい自然体からの体捌きに依る正当性なる柔道の追及と寝技の習得が今後の課題だと思います。

私の奉職しているモロッコの選手は残念ながら体が硬く姿勢が悪く、寝技が拙く一般的に勝負への飽くなき執念と根性とは忝り、全員一回戦か二回戦で消えてしまったので今後の課題山積です。焦らず・慌てず・諦めずに基礎、それも受身から指導していこうと思っています。

尚、金メダリストには2,500ドル・銀メダリストには1,500ドル・銅メダリストには1,000ドルが花束と共に授与されました。優勝者と二位・三位の選手の表彰の最後に優勝者の国の国歌が流されます。懐かしの祖国日本の国歌「君が代」・勇壮なロシア国歌・荘重なドイツ国歌等々を聞きそしてメインポールに優勝者の国の国旗が揚げられます。観客・選手等は全員立ち上がって優勝者の国旗掲揚を注目すると同時に国歌を歌い且つ聞いています。なんとも荘重な気分になります。

関 雅夫さん（平成 22 年 12 月）

最後になりますが人生はある意味で戦いの連続なのかもしれません。オリンピック競技にしても槍投げ・砲丸投げ・射撃・マラソン（戦場からの伝令）・柔道・・・と戦闘・戦場での戦いを競技化した物です。

これら競技の中にあつて柔道は日々の戦いの中でお互いを共に精力善用・自他共栄の哲学的境地に迄高め、追求した日本が世界の誇り得る武道であります。

松下幸之助が商道の神様と言われるのは何も松下幸之助が金を儲けたからでは無く正しい商いの道、正しい金の使い方を知っていて、これを実践したからに他なりません。

柔道も精力善用・自他共栄の道として続けていかなければ、即ち正当性を持った武道として継承しなければ、冒頭に掲載した東郷平八郎聯合艦隊司令長官よりの聯合艦隊解散の辞のように、天が柔道を衰退へ追いやって行くものと危惧致しています。

正しい柔道・正当性を持った勝ち続ける柔道、自然体からの合理的な体捌きによる作りと掛け、そして寝技の習得、また審判技術の向上等々課題山積ではありますが、焦らず・慌てず・諦めずに精進・努力することこそが、また生きて行く上での戦いの連続の中にあつて、お互いが幸福になれるようにとの境地を迫及することこそが、柔道の発展、果ては世界の平和と繁栄、精力善用・自他共栄の柔道の創始者師範嘉納治五郎先生の目指した、大東亜戦争の始まる直前にオリンピックを東京に招致した精神に繋がるものではないかと思料する次第です。

ここモロッコ王国は赴任地カサブランカの巡回指導している道場等において、私は焦らず・慌てず・諦めずに精進・努力して柔道の技術と心をこれからも指導していきますので、何卒応援宜しくお願い申し上げます。

世界ジュニア柔道選手権大会の合間に裏の空いている場所ではムスリム（イスラム教徒）がアッラーへの祈りを奉げており、柔道とは対照的に異国を感じました。モロッコ人の殆どはイスラム教徒で、日の出前・朝・昼・夕方・日没後と一日五回のお祈りを奉げます。お祈りの時間は各人諸般の事情があるのでそんなに厳格ではありません。小さい子供はお祈りをしない等柔軟性に富んでいます。

それでは皆様におかれましては、これから段々と寒くなって参りますので、風邪等召されませぬよう、お体ご自愛の上元気で過ごして下さい。ここカサブランカより皆様のご健康とご健勝とを願いつつ筆を置きたいと思ひます。それでは、皆様お元気で。敬具

## 羊犠牲祭

拝啓、時下益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。イスラム社会の重要行事で毎年恒例の羊犠牲祭が2010年11月17日（水曜日）～11月18日（木曜日）の二日間行われました。今回はこの様子をレポート致します。

タバスキ（犠牲祭）は別名「羊祭り」とも呼ばれます。旧約聖書の創世記に書かれていますが、アブラハムの妻が年老いて出産した、たった一人の息子イサク（コーランではイスマイル）を神に生贄として奉げよとのお告げがあり、アブラハムは泣く泣く神の生贄として、我が子を祭壇に載せ刃物で殺そうとします。イサクは父に身を任せなすがままです。

神の生贄に奉げんとするまさにその瞬間、「お前の私に対する信仰は良くわかった。息子を私に奉げるのを止めよ」と、また神のお告げがあったそうです。そして息子の代わりに羊を屠り、祭壇に載せて神に奉げる事になります。私が今から約45年位前に見た映画「創世記」では近くの木の枝に羊が生贄として掛けられていました。

アブラハムが信仰の証として最愛の息子までを神の生け贄に捧げようとした故事に因み、ムスリム（イスラム教徒）が99%を占めるここモロッコ王国では、羊犠牲祭に家長が羊（必ずオス）を屠って神に捧げます。これがイスラム教徒である家長の責任です。お金の無い人は羊より安い山羊、鶏を代用しても良い事になってはいます。しかしながら、家長の沽券に拘わるセレモニーでもある

関 雅夫さん（平成 22 年 12 月）

ので皆何とか羊を屠ろうとし、年に一度の羊肉の大盤振る舞いとなります。また、羊はこの時期には需要増大のため値上がりし 1 頭 2 万円～3 万円となるので、この時期には拘り・泥棒も多発します。我々 JICA のボランティアに対しても例年 JICA モロッコ事務所より、安全対策上の観点から羊犠牲祭の間は移動を控えるようにとの注意喚起があります。目端の利いた連中は、羊の値段が高くない祭りの何ヶ月も前から買い込んで、犠牲祭当日まで飼っておくとの事で、物価の高い都市に住んでいる人でも、家で飼う間の餌代とその間の価格差を天秤に掛け、田舎迄買いに出かけるようです。そして羊犠牲祭近づくと、あちこちの家々から羊の鳴き声が聞こえてきます。



ちなみに、私の住んでいるマンションには羊の鳴き声は全然聞こえて来ませんでした。後日屋上へ上がって見ると首の無い羊の皮がいっぱい干してありました。羊犠牲祭当日に羊を持って来て各家庭のベランダや屋上等で屠ったのかも知れません。平屋ならともかく、アパートの立ち並ぶ地域では羊をやむなく室内で飼うとの事で、ここかしこから羊の鳴き声が響いてきます。さて、羊犠牲祭当日、私が一緒に指導している柔道師範のマンションに招待されたところ、屋上で眼にしたのは、首に紐を付けた、あるいは紐で繋がれ屠られるのを待っている羊たちでした。羊は自分が屠殺されるのが解っているようで、紐を切ろうとして暴れますがどうすることもできません。

あつと言う間に引き倒されて喉を掻き切られ、角の付いている頭が胴体から離されてしまいます（添付写真は路上で捌いた羊です）。捌く際には足の先から空気を送り込み、羊を膨ませて皮と肉を分離しやすくします。そして皮を剥がされ足の先から真逆様に吊るされ解体されます。私が同僚の柔道師範の家と呼ばれてご馳走になったのは羊の肉の串焼きでしたが、色々なバリエーションがあるとの事です。例えば内臓のバーベキューとか肝臓を脂の膜で巻いた物とか、小腸で脂をくるんだ物とか羊肉の串焼きとか（私はこれを頂きました）。また、炭火で焼いた残りは、後でタジンやクスクスにしたり、長巻物みたいな物を作って食べたりもします。

他の部位、例えば足先は毛を焼いてから煮込んで食べ、羊の皮は綺麗にしてから絨毯するなど全身を有効活用します。この羊犠牲祭はイスラム教の祭りですが、同じ一神教のユダヤ教・キリスト教・イスラム教を信仰する人々を經典の民とも呼ぶので、共通している部分があるようです。古い順番からユダヤ教、キリスト教、イスラム教となりますが、イスラム教とは預言者ムハンマドが神の言葉コーランを人々に伝えたものです。そしてこれら經典の民の宗教には共通して神に生贄を奉げる伝統があるように思います。私がキリスト教の教育を柱とする立教高校の寮生活で毎朝お祈りしていたチャペル（学校などの施設に付属している教会をチャペル、独立したものをチャーチと言います）にも祭壇があ



りましたし、ここカサブランカのノートルダム寺院と呼ばれているカニーサ(教会)にも十字架の前に祭壇があります。

キリスト教ではキリスト自身が我々のために十字架に掛かり神に身を奉げたのだと思いますが、この十字架の前にある祭壇とは経典の民のひとつの様式なのかもしれません。穢れた我々の罪を贖ってくれたと私がキリスト教の学校に学んでいた時代にチャプレン(キリスト教の牧師)からの御教示を賜ったものなのですが、更に何らかの物を、祭壇を通して神に奉げなければならぬ事なのでしょうか？詳しい方がおられたら御教示賜れば幸甚です。

日本では八百万の神々、祭壇の代わりに賽銭箱が有って元日参り等々でお賽銭を入れています。一神教と多神、手紙等を書く時には欧米は個人の名前が真っ先に来て最後にカントリー、日本では個人の名前が一番最後に来ますね。トラファルガルの海戦でネルソンは各人の責任を求めたのに対し、日本では大東亜戦争末期にはお国のためと言って特攻隊が敵艦に突っ込んで行きました。大英帝国に対して各人の個人個人の責任を求めたネルソンに対して日本では「お国の為・会社の為」とかの「滅私奉公」と言った方が適切なのかも知れません。色々考えていたらかなり脱線してしまいました。

さて、この羊犠牲祭は日本の正月みたいなものようです。車も疎らにしか走っておりません。何時もは信号が変わると前の車に発進を促す警笛の音も無く、学校も休校で、スーパーも閉店です。喫茶店は店を開けている所もあります。勿論私の勤務先の柔道の道場もお休みです。柔道よりも何よりも先ずはアッラー優先なのがここムスリム(イスラム教徒)社会なのであります。道路上ではここかしこに羊を焼いている煙が立ち昇っています。今回、この羊犠牲祭のレポートと併せて私のデジカメで撮影した羊犠牲祭当日の道路上での映像をお届けします。

それでは皆様これから益々寒くなって参りますので、風邪等召されませぬようお体ご自愛の上元気で過ごして下さい。ここカサブランカより皆様のご健康とご健勝とを願っています。皆様お元気で、敬具

